



新代名物語

~ 13  
1801



新作今昔物語

遠 13  
1801

受順後者後女之許湯具持序語

藤野深氏遺愛之記



介のりしう 粉まふたきうとらした 受順のまふいよえ 柳とらりの  
あつさそあやちこのみはあひしきをこのをむちちりこの  
何なりあき海はとらふおほやけのそあもは 事さる助  
向ふよその妻のひさしくは女おしくいむさうとらあやう  
ちきさ助門うるさうとらふひさしくは通ひたれあ  
そのいけさこやなうとさうと助門とむつさうさ男のうはう  
さうの事らうとらうつけきせたれいうてさつさのけさ  
やあしきとらひさしくはとらさうとらさう年月日さうとらあ  
時助門三日四日ふとらうかつさの事の有りさうのえ物さ  
おとさひてひさしくはとらさうとらさうとらさうのさうとら



蘇仙海

明治甲午年四月辛巳  
藤野 漸  
氏家印

ちくちくけくたのうぎくまきつ居り女がよあふ一居り  
あななきちくちくいし門あはやけのみくくしてまてゆらう  
あくまぬりし男おあひくけぬてをれはあそて越出く  
枕し女うときおきくゆぐをぬのこ思ひゆきさう  
またやまひき入らうらうらう思ひてあけ失らうさく  
あふのこちかぬらうくはあはけて彼のおれ共おま  
みくおものおうきさくこの男おれたそれさき  
おらうゆりおれは持こふあまのあやしくゆきあふこを  
なめるとおひてぶらいつこよさきひさうけくせ  
はあといひまきくまん内たまやううたせものあるこ  
らうさうあけみきハ久く何さきでらうさみたあれ

ゆぐならうらうこちいふやとらふ男せんかいたくま  
のちあまそやまひおとそおれものところちうこ  
アとらひくれのみなとよみさうしてやまうらうとを  
たうはあふとさう

大塚皇門逢狐之福語

今しむううんこの園くまの軍大塚皇門とよまのこ  
ゆきあふあま急なうそおはやけのたうあひわらう  
まはははあまうつはは同國の府あうらう府う四  
里あうらもあなふ三木とらうむうらうちくちあひ  
あそや女のおひさ子とらうあふこの皇門ぐらう年  
あふとねとらうとらういさこのころあふ

やまざれのつらきものいままゝにむしりのちかぶるは  
 わねくねく三つきの重にかりひくろ府うううううう道  
 こいちぎのほしのどけきおはけとく甲をかたれのそのの  
 さうまいあつてまかへたうこけりさかふう又うひやみな  
 やの人のねうをまれなるなうういよは母のわささびり  
 あひてさあくと乃あまきこるよあつといははつたる  
 墓門きいの女はそやういゆきて府にかりおれまは  
 木のそくらもうおむ後月おれ木の火とははきてこのお  
 ちく心多たりうううとなくものさうおむるういゆ乃  
 毛よちゆきうて福な何さちねのあはれとねもひ  
 福へてかのかまきこるえうういよをけうのりむ坂早いぶ

こねもの道うううなうあういよむるき野原のうう  
 えしてはういりなまかめなくきかをかつうえされ  
 乃いみえくもわの山本の里乃城の家の火法むる  
 ながもいゆ又ゆきとされたゆういさかうあつた  
 らうなわくせうふせんかあううううううあ一は  
 いやあてらうらうなをいひしらちうもははせんや  
 何うなる石うう打うけひさううてさてる備前の重成  
 うはらなうういよ一尺をううなうううかいなをあきい  
 ちてそのおあてもなるれいりさううううううううは  
 老ねさきいをまうをいんせうあて物なるううのれめの  
 そあうものみせんうううう切ういんはうううきめ

よやありとん今もて郷らとみえー行せきうれちたは度  
ち法福のこくちうてちうあ的事もちくありーとをき  
され又もいりきーとかあんとかのきむけをこゆふ  
まていこー刀を打あうーゆくとたんとあやーた  
こつ乃ありーと後、墓門らんよいしーをくかうつこ  
たうとちうま

従岸落死男之語

今、今、今、豊後の國大野の郡井田つ山峯村といふところ  
に河野をふりーとこらとこらと女のありそのとちう村の  
本備内といふよいこまうーさす胆といふ男ありー  
ちうかーふふとせられつとえん居あうーとこらと山

ふらむりーとちう幸つ輝ありーとわー里よ出あやー  
あーちちあー人さうーと事よあーよはあ  
乃民いさきあたらやきいさまよハ岸やうゆをちう  
とまうちうとちうかーの男と岸居きいなるこあ  
時やういのかめさうかまよ行道のかこさうたう本  
花は狸は眠るをさ成んつけあう乃夫ある石と  
ちうあけ打こるさ解とおおひ取のこをあけたけ  
かまーと輝の運や法ちかうとんをつれく背のかい  
あー狸はさうきいぬくあけらせあこそそのあ  
目たつとこいさの時にさうす助又山と岸やま  
ゆんさうまをさうとく社ををれあんのこさ

人のいふまじきかゝりゆきしつたならせうれさし三箇  
きえその日例のさうゆりやとくしゆえあるが  
河の舟なく居るありしちきいしちゆりしとゆい  
そは及んえされいかれう名を命し乃かきうよ海  
山をこのさきのみよせし人言せされいとい  
りし又まはし山く裡のこもきいたきはれ  
そしたうかされるるあはれい何さう乃  
ものあまいかうさういといまうしりこれ炭  
やい山はのほりかこたうぬもむねも人た  
けしそのふれい岩の本おしといして村本な  
おしおのけり居るおありこふぬものたし

もちろぬさう残りのごひのおちあるはては  
う阿やまちくさうあやとさうの谷はまをみやを  
いまりのとききまき火の玉のゆきあやち  
あんとさういりゆりこれいし出時のもい  
ちよそたれ死居うさそ死骸をかきもてわう  
されお指軒といし葬らるいひやまし寺のは  
所乃いしきまのたれいしすしお指軒のう  
そんよあ入くお指のいしゆきを寺の下部た  
みうとさういおのたれいし死うとたまひい  
きゆり又ちよもさおまし都なんとくきいお  
おなりあしゆきこらうよらひくさうちんこら

乃らささむしうくゆき返りまよひあゝあかひにたたり  
ゆき岸より返りまよひたたりとて返り傳へたり  
とて

古く 祖文君十と勢をかりお字作大池隆園の  
のし昔物伝へりなしてそはききまつるまかり哉  
おまひてかたきあまもて各々料の残にかき割りと  
つるまの肉よりえぬもさしひごみんる  
隆園の乃かきまつるまよひつゆあつひちくさる  
事かきたきあまもいりあつひちくさる  
ああつひちくさるまよひつゆあつひちくさる  
月十四日



孫中 朝ま





